

# モーツァルトピアノ協奏曲 第20番の魅力

講師 ピアニスト 久元 祐子

ピアノ協奏曲第20番ニ短調 KV466は、壮大な魅力と独特の緊張感を持つ美しい名曲で、古今東西多くの音楽家に愛されてきました。そしてモーツァルト自身の演奏でこの曲を聴いた父レオポルドは、「息子が足鍵盤を付けて演奏した」ことを手紙で伝えています。

モーツァルト作品を、演奏と研究の両面からアプローチし続ける講師が、この曲にまつわるエピソードや奏者としての経験談を交え、作品の魅力を紹介します。

<講師紹介>は裏面をご参照ください。



©Katsuo Sakayori

**日時** 2018年 5/19 1回  
土曜日 15:30 ~ 17:00

**受講料** 会員 3,456円 (入会金は5,400円。70歳以上は入会無料、証明書が必要です)  
一般 4,104円 ※入会金、受講料、教材費等は消費税8%を含む金額です。



- ※ ご入会の優待制度をご利用の方は、お申し出ください。
- ※ 日程が変更されることがありますので、ご了承ください。
- ※ 講師の病気や、受講者が一定数に達しない場合などには、講座を中止することがあります。
- ※ 個人情報は、受講連絡、当社からのお知らせ、企画の内部資料として使わせていただきます。



朝日カルチャーセンター  
朝日JTB・交流文化塾

新宿

〒163-0210 東京都新宿区西新宿2-6-1  
新宿住友ビル内私書箱22号  
tel 03-3344-1945  
<https://www.asahiculture.jp/shinjuku>

## <講師紹介>

### 久元祐子（ひさもと ゆうこ）

東京芸術大学音楽学部(ピアノ専攻)を経て同大学大学院修士課程を修了。

ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィル、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、札幌交響楽団、神戸室内合奏団、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。

知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受けている。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。

ブロードウッド(1820年製)、ベーゼンドルファー(1829年製)、プレイエル(1843年製)、エラール(1868年製)などのオリジナル楽器を所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組み、それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を追及する。

2010年、ショパン生誕200年記念年には、全国各地でプレイエルを使っでの演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇皇后両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾り、日本人で唯一ベーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。

国立音楽大学創立90周年記念事業 楽器学資料館ピアノプロジェクトとして2013年に開催されたレクチャーコンサートで歴史的楽器5台を使用したコンサートに出演し、2014年には「黎明期のピアノ～プレイエル、シャンツ、ブロードウッド」(サントリーホール・ブルーローズ)に出演。

2012年、2014年、2017年イタリア国際モーツァルト音楽祭に度々招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。

これまでCD12作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞CD特薦盤、レコード芸術特選盤に選ばれ、「ベートーヴェン ”テレーゼ” ”ワルトシュタイン”」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。

著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「モーツァルトはどう弾いたか」(丸善)、「原典版で弾きたい!モーツァルトのピアノ・ソナタ」(アルテスパブリッシング)、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」「ショパンとプレイエル・ピアノ」「リストとベーゼンドルファー・ピアノ」(学研プラス)など。

国立音楽大学教授、ベーゼンドルファー・アーティスト、日本ラトビア音楽協会理事。

久元 祐子 ウェブサイト <http://www.yuko-hisamoto.jp/>